

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	心身の状況、環境、年齢に応じ、地域において福祉サービスを総合的に提供されるように援助することを目的として行うという法人理念。また、ホームのモットーを掲げ支援している。		地域行事への参加、交流を通して、人として暮らし続けるために地域の皆様にも支援いただいている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は毎週月曜日の朝礼時、法人理念、モットーを唱和し、共有を図り、確認している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には月に1度ホーム便りを送り、地域の方には運営推進会議時、地域交流の様子などを知らせ理解して頂ける様取り組んでいる。	○	認知症サポート養成講座を受講したスタッフも数名いるため、家族に向け講座を開催していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの庭園に東屋を設け、近隣の方が散歩等の際いつでも立ち寄っていただき、入居者と交流できるように配慮している。		近隣の方々のホームにもっと立ち寄っていただけるよう、ホーム内の行事への参加を呼びかける。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の福祉祭り、花市、夏祭りに参加し交流を行っている。隣接の通所リハビリでの保育園のお遊戯、ボランティアによる披露にも参加している。		ホームでのハーモニカ演奏もある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>入居者の友人が個人的に遊びにみえる。外来受診後、リハビリ通院後ホームに立ち寄られる。</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<p>地域の高齢者との交流を深めたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>毎年行われていることで評価とその意義を理解し、自己評価、外部評価を活かし改善を行っている。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>隔月第3木曜日に運営推進会議を開催しケアサービスの実施評価への状況について報告、話し合いを行なっている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町のふれあいまつりに参加したり、担当者に様々な事項について相談、アドバイスを受けている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加し研修報告の作成。ホーム内の勉強会として報告し共有、支援へと結びつけている。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加し研修報告の作成。ホーム内の勉強会として報告し共有、支援へと結びつけている。また他に資料を用い勉強会を行っている。</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<p>言葉遣いのチェック表を用い、行い、自己を振り返り尊厳をもって接するよう気をつける。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時書面にて利用者、家族の不安、疑問点を確認しながら十分説明を行い、不安のないよう理解、納得を得ている。</p>	<p>ホームでの生活、食事内容、リハビリなど希望を伺う。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者とのコミュニケーションを図り、常に意見、不満、苦情を訴えられるよう努めている。特に入浴介助や、トイレ介助の1対1のときを大切にしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族に月1回ホーム便りを発行。利用者の健康状態の変化時はそのつど家族に報告し、同意を得ている。金銭管理については毎月利用料表をホーム便りと一緒に送付し報告、同意を得ている。</p>	<p>ホーム便りは顔写真などが入っているためプライバシー保護のためにも外部には発行していない。外部には半期報を発行している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置、面会時にも家族の意見要望を伺うように努めている。年1回の家族会においても伺うよう努めている。苦情の受付については当医院、町県と書面にて説明をしている。</p>	<p>運営推進会議に利用者、家族、地域の方々に意見を伺う機会を設けている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>問題発生時は速やかにカンファレンスを行い、職員の意見や提案を聞いている。またモニタリング時も時間を設けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望があった際には当医院の担当者会議にて理事長、事務長をはじめ、他の部門長との話し合いを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者へのダメージを防ぐよう3ヶ月に1回職員のローテーションを行なっていることで安心されていると思う。ホーム便りにて家族にはお知らせしている。</p>	<p>運営推進会議にも変更前より参加し、お知らせした。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には交代で参加できるようにし、参加後は報告書の作成、ホーム内の勉強会で報告している。内部研修として法人全体研修に参加している。出席できない職員は報告書を回覧している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム研修会に参加し他事業所との交流を持ち意見を交換している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者より、常にねぎらいの言葉をいただいている。休憩中やメールにて職員間で話すことでストレス解消されている。それでも難しい場合はみなで話し合い、解決につなげている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者より、常にねぎらいの言葉や励ましの言葉をいただき、各自向上心を持って働いている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	アセスメントを入念に行い、本人の不安や希望を把握するように努めている。	○	担当ケアマネ、利用中の他事業所より情報を得るようにしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	アセスメントを入念に行い、本人の不安や希望を把握するように努めている。家族の不安や希望を伺い、家族との信頼関係を築くように努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時など、本人、家族とのコミュニケーションを図り、気軽に相談していただける関係をつくる努力をしている。支援内容によっては隣接医院の理事長、事務長、居宅支援事業所ケアマネに相談している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や医療機関、前担当ケアマネ、利用していた他事業所と連絡を取りながら、利用者が安心して生活できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることを把握し、コミュニケーションを図りながら食事の後片付け、洗濯物片付けなどを一緒に行っている。		昔話を聞いたり、家事などの方法を教えていただく姿勢を忘れないように心がけている。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	頻回に家族に状況報告をすると共に状況変化時は随時行うことにより共有に努めている。また面会をしていただけるよう声かけしている。		家族との連絡を蜜にし、家族と相談しながら支援に結び付けている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族の話を聞き気持ちをくみ取り、理解していく。より良い関係が築けるよう面会時は温かく迎え、話ができる環境をつくる。常に話を聞く姿勢を忘れない。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	リビング、居室で面会、電話など対応できるよう支援している。また外来受診時、待合室での会話もできるよう支援している。		居室への持込制限をしていない。お茶やお菓子を用意している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中はリビングで過ごすことが多く、会話やレクリエーションを通じ、互いにかかわり合い、支えあえるような環境を保っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホーム外での気軽な声かけをし、気軽に立ち寄っていただけるような関係を保つよう努力している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を伺い、添えるように努めている。困難な場合はその方の生活歴、家族からの話、希望などを伺い、スタッフでその方本位となれるよう検討している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、その他経過を家族、前ケアマネなどから情報収集してそれまでの生活環境の把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝、入浴時、状態変化時のバイタルチェックや定期的なモニタリング、長谷川式、仮名ひろい、FIMを行うことにより、把握するように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族との話し合いを持ちモニタリングを定期的に行い、担当者会議にかけて計画を作成している。	○
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングにて見直し、状態変化時には本人、家族、関係者と話あいをし計画を作成し直す。	利用者の家族への状況報告を行い、介護計画の見直しを必要時に対応している。毎月ホーム便りにて様子をお知らせしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援内容だけでなく日々の様子をケース記録として残し、介護計画の見直しに活かしている。		ケアプランに沿った介護支援を行い記録し、モニタリングを行い計画を見直している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接している医院にリハビリ・または診察のため通院介助を行なっている。デイケア施設にて、合同の納涼祭を実施している。有償ボランティアによる散髪も行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	隣接通所リハビリにて保育園の慰問、ボランティアの披露に参加している。町の福祉祭りにも作品を展示したり、参加している。消防の協力も得、防災訓練を行なっている。地域のお祭りを見るため外出している。		利用者の要望にあわせ、散髪ボランティアの計画を立てている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意思に応じ、他のサービスを利用できるための支援をしている。受診時の移送サービス、ヘルパー同行をお願いしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議、また必要時意見交換、情報交換している。地域福祉祭りに参加、作品の展示をさせていただいている。		認知症サポート養成講座を受けたので家族に向けて開催の協力を求めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>隣接医院に入院時は面会にいき、情報交換をしている。他病院に入院時は家族と連絡を取り情報交換をしている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>終末期においては家族との連携を図り、共有したケアに努めている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>終末期において本人、家族の意向を大切にし、ケアに努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	医師を交え本人、家族と十分な話し合いを行なっている。担当者会議において、他職種からのアドバイスをいただく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を持ち、言葉使いに気をつけて接し、プライバシーが確保できるよう支援している。個人情報の取り扱いについては個人ファイルを用意し、他者の目につかない場所に管理している。	○	言葉かけや対応についてはできる限り尊厳を守るよう気をつけている。言葉使いのチェック表を行い、自己を振り返るようにしていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が意思をを表出できるような雰囲気づくりに努めている。コミュニケーションだけでなく表情、反応に注意深く観察し、本人の意向を把握していくよう努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望をできる限り大切にし、1人ひとりが自分のペースで自由に暮らせるよう支援している。	○	個人のニーズに沿った散歩、外出などができる機会をつくれるよう努めたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院へ行くことが可能な方は希望の店に行っている。行けない方は有償散髪ボランティアを利用している。		月に最低1回は有償の散髪ボランティアの方に来ていただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる範囲で準備、片付けなどをお手伝いしていただいている。飲み込み困難のため食事に時間がかかる入居者は早めに食事を開始している。	利用者の方々の希望を取り入れるよう栄養士に相談している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ、飲み物等、できる限り希望を反映し楽しんでいただいている。	利用者に頼まれ、希望のものを購入してくる。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを把握し、また個人のADLにあわせて誘導、見守り、介助を行なっている。	時間で声かけ、誘導をしている。また本人の希望時に見守り、介助を行なっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回、入浴を楽しめるようにしている。機械浴にても入浴される。	順番で入浴したり、シャンプー、石鹸等も本人希望を取り入れている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠たいときなどは自由に居室やリビングのソファで休まれている。その方の状態のあわせレクリエーションを取り入れている。	昼夜逆転がある方には声かけをし、昼間はリビングで過ごしていただいている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事手伝いとして食器拭き、洗濯物干し、たたみを行なうこと、日光浴や散歩を日々の楽しみや張り合いにしている方が多い。くもん学習も楽しみにされている。	


	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度の金額であれば個人で保管されている方もいる。大金は事務で預かり、必要時渡すという形をとっている。本人了解のもと、バッグごとホームで預かっている方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族と共に外出されたり、職員と買い物、外食に出かけるなど外出支援をしている。天気の良い日は東屋のベンチで談笑している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望を伺い、家族と相談し実現できるよう支援している。年2回、数名ずつ、できるだけ全員の外出支援をしている。		家族と通院、買い物、外食されている。その際、外出届けの記入をお願いしている。また施設での買い物、地域のイベントにも参加している。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に自由に電話ができるようになっている。年賀状を本人が出したい方へ出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自由に訪問できるようになっている。		来訪者にはお茶を提供し、くつろいだ雰囲気の中で過ごしていただいている。来訪者の方々には訪問者用記録ノートに記帳していただいている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないを実行している。	○	ホーム内で身体拘束についての勉強会を行なっている。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は鍵はかけていない。センサーにて人の出入りを察知している。		つねに利用者に眼を配りながら支援している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して常に見守り、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は手の届かない場所、はさみ等は利用者の状況に合わせて保管場所を決めて保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態を把握し、特に危険がある方の見守りを徹底している。インシデント、アクシデント時は報告書の作成、カンファレンスを行い再発防止に努める。		インシデント、アクシデントレポートがあり、発生時は報告書の作成、カンファレンスを行ったり、担当者会議での報告をし再発防止を図る。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変、事故に備えマニュアルを作り、医療との連携をとりながら応急手当、初期対応の訓練など研修している。		吸引器を常備したり、心肺蘇生の研修にも参加。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的実施している。マニュアルも作成している。		今年度は22年の年明けには消防隊員にて消防訓練を行っていく予定。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		<p>毎朝のバイタルチェックのほか、入浴前、体調不良を感じたときにもバイタルチェックを行い、看護師に報告している。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>薬の分包、服薬準備は看護師が行い、不在時はリーダーが行なう。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>栄養士に献立を立ててもらっている。10時、15時と1日2回のお茶の時間を設けている。そのほか入浴後、散歩後などにもお茶をすすめている。</p> <p>飲み込み困難の方にはとろみをつけ、確実に摂取できるよう配慮している。食事量が少ない方には高カロリーゼリーなども利用している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いうがいの施行、手すりドアノブなどのアルコール消毒。感染症マニュアルがあり、予防、発生時に備えている。勉強会を行っている。		新型インフルエンザの流行で空気清浄機を導入した。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日新鮮な食材を購入している。食器は使い捨てキッチンペーパーで拭いている。食器の消毒も週1回と定期的に行なっている。		月2回冷蔵庫の食材、調味料の点検を行なうと共に調理器具の衛生に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の階段にはスロープが設けてある。ホーム内の玄関は段差がなくフラットである。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明器具も色合いを考慮し目に優しく、居心地良く過ごしていただけるような共同空間づくりに心がけている。塗り絵や習字など本人の行なった作品を飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用椅子のほか、2,3人掛けのソファーもある。そこで話をされたり、うたたねをしたりとくつろいでいらっしゃる。また車椅子も自由に動ける空間の確保がされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家で使い慣れたものを自由に持ち込むことができ、本人の安心につながっている。ベッドは持ち込まれる方、レンタルされる方もいる。</p>	<p>○</p> <p>家族の協力を得、定期的に寝具等のクリーニングを行なっている。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>常に空気清浄機稼働しており、快適に過ごすことができる。温度もこまめに調節している。各居室にもエアコンが設置されている。</p>	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下には赤い手すりの設置、車椅子でも対応できるトイレ。また浴室にも手すり、滑り止めマットを設置している。居室ドア上に本人の顔写真を下げ、確認しやすくしている。</p>	<p>常に動線上に障害物がないように、また共同スペースが安全に利用できるように努めている</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>混乱や失敗を防げるよう、コミュニケーションをとり不安そうな様子をすぐに察知し対処するよう心がけている。</p>	<p>○</p> <p>本人のやりがいを活かせるよう、できる喜びを感じていただく</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭には東屋があり、周りには薔薇園を設け、楽しめる場所がある。柿の木、果実の木があり、収穫を楽しみにし、柿の渋抜きを行なっている。</p>	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

環境整備:常に空調設備が稼働しており、快適に過ごすことができる。

感染予防のため手洗い、うがいの徹底。ドアノブ、手すり等の消毒拭き。

アットホーム的で1人ひとりを大切にしている。

認知症予防のためくもん学習を取り入れている。